

サイドバイサイド

【みんなですすめよう男女共同参画】



ドメスティック・バイオレンス(DV)をなくすために 夫やパートナーはなぜ暴力をふるうのでしょうか。

暴力は表面上は“ささいな事”をきっかけに起こることが多いのですが、暴力を振るう男性は、そういう場合に「女性を思い通りにして当然」「暴力を振るってもいいのだ」という思い込みを持っています。その根底には、「妻や恋人は自分のものなので自分に奉仕して当然」という自分中心、男性優位の考え方があります。

ドメスティック・バイオレンス(DV)の本質は、男性が持っているさまざまな力、腕力や経済力、社会的地位などを背景にして、女性を所有物視し、女性を支配し服従させる手段として暴力をふるうことだと言われていいます。夫やパートナーからの暴力をなくすために、歴史的につくられ容認されてきた、これらの男尊女卑、性差別的な社会構造を改革し、女性と男性が共に人権を尊重し、個性と能力を發揮し責任を負う男女共同参画社会を築いていきましょう。

このDV被害者に対する相談や支援をはじめ、町の男女共同参画全般について、具体的事業を示しているものが「まつぶしコミュニケーションプラン」です。このプランの進捗状況を検討するのが、松伏町男女共同参画推進委員会の役割の一つであり、今年度も「各ライフステージの機会均等に向けて」等の意見が提案されました。(全文は町ホームページに掲載しています。)

人権 それは愛

問合せ／教育文化振興課☎ 990-9011
企画財政課☎ 991-1815

今月は「松伏町小・中学校人権作文集 - 第10集 -」の作品の中から、小学校3年生の作品を紹介します。

「ごめんね。」できてよかった。

わたしは、一年生の時、いやなことをいわれました。はじめは、「ばか。」と、いわれました。つぎは、「どじ。」と、いわれました。さいごは、「しね。」でした。わたしは、なんにもしていないのに、何でいわれるのかなあ、と思いました。

先生にいおうかな、お母さんにいおうかな、と思いました。でも、いいませんでした。学校に行きたくなくなっちゃいました。

一番なかよくしていたのに、なんでこんなにわる口を言われるのか、よく考えたけど、なぜだか分かりませんでした。なんにもしていないのに、言われて、きずつきました。かなしくなりました。くやしくなって、しかえしをしたくなかったけど、できませんでした。

だから、わる口をじゆうちょうに書きました。「どじ。まぬけ。ばか。」と、書きました。書きちゃった後、わたしは、わるかったな、と思いました。だから、そのじゆうちょうは、だれにも見せませんでした。

公園のてつぼうが一つしかなかったので、じゃんけんをしました。わたしがかったので先にやりました。終わったら、友だちがつづけてやったのを、わたしが、ちゅういしたことで、友だちがおこってしまったことを、おもい出しました。学校の帰り道、友だちはひとりで帰っていました。わたしもひとりででした。さびしくなっちゃいました。だから、なかなかおりをしたくなりました。

「ごめんね。」と言うと、友だちも、「ごめんね。」と、言ってゆるしてくれました。そして、もとのように、なかよしになって公園やアスレチックであそべるようになりました。

「ごめんね。」といってあやまってよかったな、また、なかよくなれてよかったなと思いました。今もなかよしです。

この人権作文は、児童・生徒のみなさんに、人権や差別について考えていただき、他人の心の痛みがわかる、差別のない・許さない・見のがさない人になってほしいと願って作成されています。

がん(乳・子宮頸・大腸)検診無料クーポン券は使用されましたか？

◆使用期限／乳がん検診 12月16日(日)、子宮頸がん検診 12月28日(金)、大腸がん検診 12月16日(日)